

おとこはみんな、
おっばい星人!?

～子供に

“なんだかぺっちゃんこ♪”
と言われないうために～

おとこはみんな、おっぱい星人!? ～子供に“なんだかぺっちゃんこ♪”と言われなかったために～

先日、赤ちゃんが生まれた友人の家へ、同じく大学の同期の友人たちと、わいわいとおしかけたときのこと。生まれたばかりの男の子は、それはもうかわいくて、ちっちゃくて、やわらかい。一心不乱にママのおっぱいにしゃぶりついて、元気そのものでした。

その家にはお姉ちゃんがいる、まさに一姫二太郎の理想的な配分。お姉ちゃんのほうは4歳にもなるとぐっと大人びてきて、ママのおっぱいを弟に取られて内心気に食わないのですが、そんなつもりを見せないようにこらえてるあたりがなかなかかわいい！

「ママが取られちゃった気がするの？」

「そんなことないもん！」

「そうだよね～もうおっぱいはいらぬもんね」

「弟にあげたの」

「あら、やさしいわねえ」

「パパも言ってた。おっぱいが欲しいのは男の子だって！」

そこで全員絶句、そして大笑いしました。たしかにそう！

おっぱいおっぱい言ってるのは男のほうよね、と。

そこでいかにおとこが「おっぱい星人か」について話はずむはずむ。まず、考えてみれば、ゼロ歳からおっぱいを吸い始め、1歳半から長い子は2歳くらいまでおっぱいを吸っているみたい。その後、実際におっぱいは吸わなくなっても、寝つくときや、機嫌のよくないとき、風邪をひいてぐったりしているときなどには、ママのおっぱいを手でもんだり触ったり。小学校にあがるころまでは、男の子はママママ、となに

かとママを求め、おっぱいをもみもみするんですけど！ 経験者は語る、ではないですが、そこのおうちに遊びにきていたママたちはみなそう言う。はあ～そんなもんなのね。甘えん坊さんなのですね。

その後、男の子はやんちゃな小学校の低学年を過ぎます。高学年にもなると、「女の子にはもうおっぱいの膨らむ子も多いわよ。最近は小3か4あたりでブラを買う子どももいるくらいだから」なんだとか。そんな早熟な女の子たちを前に、なんだかよくわからないけどムズムズして興味津々の男の子たちは、やはりおっぱいへの飽くなき探究心を抱くのね！ 中学生にもなれば、もう頭のなかは女の子のおっぱいでいっぱい。さらにその後、中学の後半～高校と、みなさんもお存じの、どうにもとまらない野獣時代がやってくるわけですが、つまり！ 男の子がおっぱいのことを考えていない時期は、小学校低学年のほんの3、4年だけってことに！ 一生おっぱいのことばかり考えているなんて、これはまさにおっぱい星人。おっぱいの星からやってきたに違いない！

そういえば、「ノッティング・ヒルの恋人」というヒュー・グラントとジュリア・ロバーツ主演の映画のなかで、初めて結ばれた朝に、ジュリアが「どうしてオトコはそんなにおっぱいに興味があるの？ 世界中のあらゆる女性にくっついてるじゃない？ どうしてそんなに魅力的に感じるの？」と聞くと、改めて彼女のおっぱいをチェックしなおしたヒュー・グラントが「…。素敵だ。理由なんかわからない。」と答えるシーンがありました。40近い男も小学生も、みんな

おとこはみんな、おっぱい星人!? ～子供に“なんだかぺっちゃんこ♪”と言われなかったために～

おっぱいのとりこなのですね。

でも、おっぱいさえついていればいいというものでもないみたい。その、小学校にあがるまでずっと息子におっぱいを触られていたママ友達が言うには、「1、2歳のころはもううれしくなっちゃうくらいおっぱいに夢中だったのに、4、5歳になると、『なんだかぺっちゃんこ♪』ってニコニコしながら言うのよ！

それを聞いていたダンナが大笑い。失礼しちゃうわ。たしかに授乳後はぺっちゃんこに…しかも以前よりさらにぺっちゃんこになったけど、大笑いしなくなっただっていいと思わない？」って。男の子は4歳にしておっぱいの変化に気づき、パパはもちろん気づいていた…

む～、厳しい。「毎日のように触られていると、こっちは気づかなくても、相手には変化がわかっちゃう」みたいね。そりゃあおっぱい星人たるもの、おっぱいの質感・さわり心地・ハリ・ツヤにいたるまでうるさくもなるはず。今後は気を引き締めておっぱいの引き締め&ケアに励まないと、いつどのおっぱい星人に指摘されるかわからないから、要注意ですね！